

# 川根地区中高連携だより

川根地区連携型中高一貫教育協議会

## ■ 川根から今の時代に求められる資質・能力を育む

もうすぐ元号が変わりますが、変わらないものもあります。<sup>えと</sup>干支です。今年の干支は、「亥」です。元々干支は、60 を周期とする数詞の一つで、10 ある十干と 12 ある十二支とを組み合わせたものです。暦のほか、時間や方位にも用いられます。近年は、身近な動物を当てはめた十二支を干支ととらえることが多くなってきましたが、本来、干支と十二支は別物です。2019 年は、干支で 36 番目にあたる「己亥」の年。そこで、安岡正篤氏の書籍「干支の活学」を紐解いてみました。

その本を見ると、「己」は「紀」だと言っています。「すじみち」、「きまり」といった意味があります。己の字の形は糸を表している。糸が絡まると悪いかたまりになってしまう。だから、筋道を通すという意味なのです。己の年は、わがままにならずに規律を守ることが大事ということです。そして、「亥」は「核」であると言います。核は植物の種のこと。「草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態」で、「発芽へのエネルギーを蓄える」ことも意味しているそうです。つまり、「己亥」は、「筋道を通して規律を正し、エネルギーを次への発展へとつなげる年」と展望されます。

そう考えると、私たちにとって、自分の力を試してみる時なのかもしれません。今年は、「自分の力を信じて、これまでとは違ったところで挑戦する年」なのです。川根高校には、このことを後押ししてくれる態勢が整っています。「地域の課題解決に取り組む地生学」「ICT 授業の推進」「一人一台タブレット端末の活用」「ZOH0 との連携」「川根留学生制度」そして「県外生徒選抜」。これだけの態勢を整えながらも、川根高校の魅力である「生徒一人一人を大切に作る」姿勢も貫かれています。

「先行き不透明な時代」とよく言われますが、まさに、そういう時代に求められる資質・能力を伸ばすことに挑戦することができる川根高校なのです。この魅力を中高連携でさらに深めていきたいと思います。(川根中学校校長 滝下祥央)

## ■ 秋季中高合同研修会 11 月 13 日(火)

中高の職員に加え、県と市町の教育委員会からの参加も得て、秋季研修会が川根高校セミナーハウスで行われました。静岡県総合教育センターの大野達雄・鈴木真一両先生による演題「ティームチングティーチングの目指す方向性」の講演に続き、授業交流、公開授業、生徒交流、川根の郷の夢を語る会、の 4 委員会の部会で川根地区の中高一貫教育の更なる充実のための研修が行われました。



## ■ 川根講演会 1 月 18 日(金)

冬季川根講演会では、ゾーホージャパン株式会社の前田美裕さんからお話を伺いました。ゾーホー本社はインドにあり、横浜にある日本の会社と積極的に情報交換をしながら、互いの知識や技術、文化などを取り入れてよりよい製品を作ることに力を入れていると知りました。また、インド出張の際には、現地社員との交流を含め、現地での生活を楽しんだり、自分の英語力を試したりと、貴重な体験ができ充実していると感じました。

一番心に残ったのは、「非常識への挑戦が大事」という言葉です。これは、どの職業に就いても大切だと思います。今のうちから、何事にも積極的に挑戦していきたいと思います。

(川根高校 2 年 諸田琉生)

積極的に他の国々の方たちと関わろうとするのは、すごいなと思いました。他の国の方たちとは言語が違うので、どうやって伝えればよいのか、私だったら困ってしまうと思います。しかし、言葉が違って、ジェスチャーや英語などを少しでもできたら、それだけでも通じて、国の文化を知ることができたり、その国の方たちと仲がよくなれたりするということが素晴らしいことだと思いました。それをきっかけに、国同士の仲が深まったらよいなと思いました。

(川根中学 1 年 西原玲奈)



## ■ 川根の郷の夢を語る会 2月8日(木)



この行事では、川高生の優しさや積極性を多くの場面で感じました。高校三年生の講演では、一人一人が夢の実現に向けて頑張っていることを知り、グループでの話し合いでは、「外国人から見た川根本町」について意見を出し合うことができました。観光や特産物の利用など多くの案が出ました。また、会以外でも川高生が案内をしてくれたり、声をかけたりしてくれて、うれしかったです。(本川根中学校2年 春田浩奈)

私が「川根の郷の夢を語る会」で、1番印象に残ったことは、川根高校3年生による「私の進路実現」講演です。看護の専門学校への進学を決定した3人の先輩の話でしたが、私自身の夢が「看護に関わる仕事に就きたい」という夢を持っているので、大変興味深く聞かせていただきました。この講演を通して、先輩達の目標実現に至るまでにどんな努力や頑張りがあったかを知ることができ、どのように学習を積み重ねていけばいいか、自分の目指すべき方向はこれでいいのか等、改めて自分と向き合うことができたように思います。私も、先輩達のように夢に向けて、「今」を大切にしながら頑張っていきたいです。(中川根中2年 細田久美子)

川根の郷の夢を語る会では、就職や進学のことや川根のことについて、深く考えることができました。私が特に印象に残っていることは、分散会での話し合いです。高校生は場の空気を明るくして発言しやすい雰囲気になってくれたり、みんなの意見をまとめてくれたりして、とても頼りになりました。また、自分も高校生になったときには、人がまとめられるようになりたいと思いました。今回の話し合いから、一人ひとりが川根のことを考えていく事が大切であると感じました。伝統や環境にも普段から目を向けるようにしていきたいです。(川根中学2年 柿本詩織)

## ■ 「地生学」を連携型中高一貫教育の魅力のひとつに

先日、川根高校が本年度から取り組んでいる「地生学」という授業を参観させていただきました。数ヶ月前、川根高校について取材している教育新聞の記者と川根高校の魅力化について話す機会がありました。その折、話題になったのが、この「地生学」でした。その記者から「川根高校が本年度から取り組んでいるこの『地生学』こそが、今後、川根高校の魅力として大きな柱となるのではないか。」という話を聞いていましたので、その時から「地生学」の授業を一度参観してみたいと思っていたところでした。

参観させていただいた授業では、交流や観光につながるスポーツビジネスの探究という体育系のテーマを選択した生徒が、地域住民の交流のために自分たちが考案したスポーツを紹介したり、芝生育成による地域緑化ビジネスモデルの探究という商業系のテーマを選択した生徒が、観光客誘致につなげるための町内緑化計画を紹介したりしていました。最終的には、高校生の考えた企画を町行政に提案していくそうです。実現させるためには、まだまだ工夫・改善の余地はあるものの、どのプレゼンも高校生なりの発想で、自分たちのアイデアを自分の言葉で表現できていました。何よりも感心したのは、どのグループの発表からも、地域の現状にしっかりと眼を向け、地域の課題を解決するとともに、地域の魅力を発信しようとする「川根愛」を感じることができたことです。まさに「地生学」の名前のごとく「地域の生かし方」・「地域での生き方」を考える授業でした。

川根高校で取り組んでいる「地生学」と同様の学習は、連携中学校である3中学校でも「総合的な学習の時間」を中心に長年取り組んでいます。ちなみに、本校では、「総合的な学習の時間」をより充実させたいと考え、昨年度から1年次にNPO法人の講座を利用して取材の仕方や調査方法などについて学び、2年次には、実際の調査学習に取り組むとともに、プレゼンの専門家から効果的なプレゼンテーションについて学び、そして3年次で、発表するという3カ年を通しての学習に形を変えました。

「総合的な学習の時間」の中で、地域について学んだ連携中学校の多くの生徒が、川根高校に進学し、「地生学」の授業の中で高校の先生方の指導のもと、さらに質の高い学習に取り組むことで、思考力・判断力・表現力はもとより、川根を想い、川根を愛する心を身に付けてくれるのではないかと期待がふくらみます。

中高6年間を通しての国語や数学といった教科の授業も大切ですが、今後、連携中学校における「総合的な学習の時間」での学びを、川根高校の「地生学」に繋げていくことができれば、まさに記者が言っていたように、川根高校の魅力化の大きな柱となるでしょう。さらには、その成果を広く全国に発信させていけば、川根高校への入学者の増加にも繋がるのではないのでしょうか。連携型中高一貫教育の新たな可能性を感じることができた「地生学」の今後に期待しています。

(中川根中学校長 鈴木憲)

### 川根地区連携型中高一貫教育協議会

連携校(静岡県立川根高等学校、島田市立川根中学校、川根本町立本川根中学校、川根本町立中川根中学校)  
事務局：川根高校 TEL57-2221 E-mail : kawane-h@edu.pref.shizuoka.jp ご意見お待ちしております。